ふじのくにグローバル人材育成事業　報告書

参加したコース	マイ探究コース			訪問国	アメリカ合衆国	
学校名	静岡農業高校	氏名	太田海帆		学年	三年

留学のテーマ　「犬にとってストレスのない動物保護施設を作りたい」

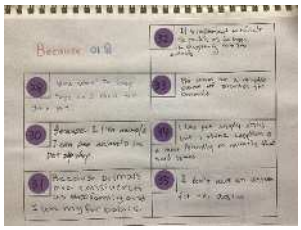
〇留学前

冬に留学したので、夏は国内の動物愛護センターに行った。施設内を見学しながら、説明を聞いたり、ボランティア活動について質問したりした。昔と今の動物を保護した後の動きや、殺処分の機械のことを詳しく聞くことができた。施設で働く人の中に獣医、動物看護師がいて、施設にいる動物たちの治療をその場でできるようにしてあった。処置をしても治らなかったり、もとから処置のできる状態だったりすると、最近はガスではなく薬や麻酔を使って安楽死という処置をするということを知った。その施設に行く際に看板がなく、初めて行く人が迷いそうな場所にあるため、大通りの車がたくさん通るところから看板を出して、もっと人が行きやすいようにすると良いと思った。

〇留学中

探究活動は、アンケートと動物保護施設の見学、動物関係のスタッフにインタビュー、街なかにある犬のための工夫を探すことをした。

アンケートは乗り継ぎの空港で犬を連れている女性を一人目としてスタートした。留学前にスケッチブックとシールでアンケートの準備をした。質問は三つと自分の意見を書くところが２ヶ所。地域の人を中心に行おうと思っていたが、自分の英語力が話しかけられるほどではなかったため、主に語学学校の友達に答えてもらった。ホームステイのホストファミリーに手伝ってもらいながら、動物園のスタッフやペットショップの店員さんにも答えてもらうことができた。語学学校の友達に答えてもらうとき、日本とアメリカ以外のことも聞けたため、よりいろいろな地域のペット事情を知れて良かった。



動物保護施設の見学は複数の施設を行くことができた。その中で、自分がロサンゼルスを選んだ理由のずっと行きたかった施設は、予約をして動物を連れて来ることができる人しか入れないらしくて、施設をじっくり見ることは出来なかった。しかしホームステイのホストファミリーが事情を説明してくれて、トリミングをする場所とそこの担当の人と話すことができた。動物たちの清潔を保つために、人に触られることに慣れるためにトリミングを行っている。この施設には、どのような動物がいるのかタッチパネルのようなもので見ることができた。他に行った施設のうち記憶に強く残っている施設は、室外にコンクリートで犬の部屋がつくられていて、高さは大型犬の体高の１メートルほどで犬にとっては暗くて全体が囲まれていて安心できる場所になっているかもしれないが、少し冷たい印象があった。課題もあるが、木材を使うとより温かみがある施設になるのではないかなと思った。また、コンクリートの灰色が目立つので、カラフルにすると楽しい雰囲気が作れると思った。

街中にある犬と暮らすための工夫は、街のところどころに犬の排泄物を捨てるための袋がポストのようなものに入っていて、隣にゴミ箱も置いてあった。場所ごとに袋のイラストが異なり、袋の色は黒や緑だった。住宅街の近くには、ドッグランや散歩コースがあった。ドックランは大型犬用と小型犬用に分かれていて、水飲み場、犬の排泄物用のポスト、ベンチ、木陰があった。どこのドッグランにも５人以上の利用者がいて、動物を飼っている人たちのコミュニケーションの場になっているように感じた。小さい子供が遊ぶところには、子供が安全に遊べるように犬が入れないようになっていた。ペットショップには、犬猫の生体販売はしているところは少なかった。保護猫を生体販売しているお店はあった。ペットフードの種類が豊富で、ペットショップではなく地域のスーパーにもペット関係のものがたくさん売られていた。

〇留学後

留学中に新しく疑問に思ったことがありまだ調べられてないから、リストに書き出して全て調べていこうと思った。また、アンケートしたいこともできたので SNS を利用して行いたい。